

花

いま
新潟大学の魅力と現在を発信
新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]
2019.SUMMER
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE No. 29

授業紹介 -教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

学生をアクティブに 特集 — 加速する教育再生 —





Cover Photo

学生達の主体的なグループ学習を快適かつ機能的な環境で促す中央図書館ラーニング・コモンズエリアの一角。従来の図書館が持つ「静」のイメージを覆す、アクティブに学生達がディスカッションする「動」な光景が印象的。



新潟大学におけるAP事業の取り組み

2015年度

●AP事業採択

文部科学省より、テーマIV「長期学外修プログラム(ギャップイヤー)」の実施校に選定

●AP事業推進協議会の設置

AP事業の取り組みを推進し改善していくため、外部の方を招いて、2015年12月からAP事業推進協議会を開催

2016年度

●学内推進体制の構築

学内外と連携を取りながら、事業を推進するため「学外学修支援部門」を設置

2017年度

●クオーター制導入

学事暦をクオーター制に移行

●連携教育支援センターを新設

教育・学生支援機構に連携教育のさらなる機能強化を図るために「連携教育支援センター」を新設

2018~2019年度

●教育の質的転換

・激変する社会に耐えうる主体的学修者を育成する全学的な教育・支援体制を構築

・教職員の学修デザイン、学修支援に対する意識の転換を図る

少子高齢化や地方の衰退、雇用環境の変化や格差の広がりなど、日本社会は急激な変化の渦中にあります。こうした状況の中で、社会側から大学教育への期待や要求は増しているように思われる。

「それなりに安定し余裕のある時代では、大学に入學し卒業後、名の通った企業に就職すれば、

社会の変化と 大学教育に 向けられた期待

2015年に採択された文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)テーマIV長期学外修プログラム(ギャップイヤー)」。激変する社会に耐えうる主体的学修者を育成するため、学生の主体性や学修への動機づけを高めることを目的に据えている。総合大学としての本学の利点を活かし、多様な学外学修先を想定した長期学外修プログラムをはじめ、初年次教育改革と学事暦改革などを経て、転換教育体制の構築は加速している。中間評価では採択校の中で数少ないS評価を受け、最終事業年度を迎える今、そのプロセスと成果、今後に見据える新潟大学の教育プログラムの未来に迫る。

退職まで安定した暮らしを送れるというコースは標準化されています。しかし、現代はそのような先行きは不透明になり、大企業でも倒産するという時代です。こうした状況下で、大学で何を教え、どのような人材を輩出するかについての関心は非常に高まっています」

こう語るのは新潟大学の副学長(学務担当)であり、教育・学生支援機構の副機構長である松井克浩教授。特集制作に当たり話を聞いた。「大学で教える側から見ても、学生にどのような力をつけて社会

に送り出すかという問題は、より重要性を増しています。そこで課題になるのは、学生に求められるのはどのような能力で、それはどのような方法で修得できるのかということ。近年の議論で重視されているのは、想定外の困難に際して的確に判断を下すための力、



左)副学長(学務担当) 右)学外学修支援部門長
松井克浩教授 木村裕斗准教授

学生をアクティブに — 加速する教育再生 —

特集

2019.SUMMER vol.29

CONTENTS

03 特集

学生をアクティブに — 加速する教育再生 —

08 授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

10 注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

13 活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

15 基金関係のお知らせ

16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実!

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。

@niigata.univ
@Niigata_Univ_O
@niigata_university

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザインしたものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

学生の声

工学部電気電子工学科4年
新井裕介さん



■ 参加したプログラム

私は2年次に『長期・企業実践型プログラムI・II』に参加しました。『I』ではビジネスメールの書き方や社会人マナーなどを学び、『II』では夏休み期間中の1ヵ月間、東京の凸版印刷株式会社で就業体験をしました。配属されたのはIT事業を担当する部署で、ウェブコンテンツやプログラミング制作の課題に取り組みました。

■ どのような発見や気付きがあったか?

実際に業務を任せられ課題に挑戦することで、自分が持っていない知識や技術、社会で働くことの意味や、企業の雰囲気をリアルに体感することができました。また、実習後には他企業に行った学生が集まり成果報告会を行いました。そこでは自分が行っている企業の情報も詳細に共有することができ、様々な社会の現場に対する知識を得ることができました。

■ 前後で意識の変化は?

卒業後に社会で働くこと、将来のイメージがよりはっきりしました。周囲との協働作業で、他者理解が重要だということを知り、その後の学生生活の目標が明確になりました。

「学生は社会の現場には明確な正解がないことに気付くでしょう。そこで自分の課題を見つけ、何のために大学で学ぶのか」という動機を持たせることが大きなねらいです」（松井教授）。

「学外学修」というとインターンシップだけがファイチャーアップされがちですが、それだけではなく、学生に大学の専門性を活用して社会に貢献しようと考えさせることが重要です」と、説明するの

は木村裕斗准教授。1、2年生の時点で自分は社会に対して何ができるのかを考え、何ができるのかというアリティシヨックを感じることが、その後の成長につながるという。では、学生が社会人基礎力、課題発見力を身に付ける必要性に気付くための場として、新潟大学ではどのようなプログラムを実施してきたのか。次に象徴的な講義を活動例としていくつかあげてみる。



『フィールドスタディーズ』でのプレゼンテーション



『キャリアデザイン・インターんシップI』での成果発表

「自律と創生」を体现し、主体的学修者を育成するための転換教育体制を構築。

創生学部「フィールドスタディーズ」

創生学部の1年生を対象にし、地域や産業界など様々なフィールドでの体験的学修を通じ、日常の生活に密接に関連する産業・地域構造の理解を図る。学外で取り組むプロセスを通じて多様な見方・考え方方に触れ、業界・業種・自立

思考方の現状と課題を把握する。最後に、学修総括をプレゼンし、レポートにまとめる。2018年度は16機関から協力を得て開講された。

工学部「キャリアアデザイン・インターんシップI」

工学部の協創経営プログラムで実施。企業と社会福祉施設を体験的に学ぶことにより、自ら将来設計（キャリアアデザイン）をより具体的に考える機会とする。また、工学とは実社会で役立つ学問分野であることに気付き、工学部における今後の勉学意欲向上をねらいとしている。

新潟大学「大学教育再生加速プログラム(AP)」の取り組み

クオーター制導入を起点とした初年次教育の見直し

キャンパスの枠を越えた連携強化

総合大学の多様な専門性を活用した学外学修プログラム

初年次学生対象

〈地域〉に密着した学修
社会人として必要とされる汎用的能力の早期育成

〈産業界〉にコミットした学修
学問と実践を結びつけた専門性への意識づけ

〈海外〉に意識を向けた学修
異文化体験を通じた学修意識の醸成・動機づけ

全学生対象

〈学生企画〉の実現による学修
学生の企画実施による主体性伸長

学生をアクティブにする教育再生に向けて

多様な学外学修プログラムの開発

全国の大学に先駆けた初年次教育改革のモデル化

全国12校(本学含む)と連携した情報共有・発信



文部科学省による「大学教育再生加速プログラム(AP事業)」は、高等学校や社会との円滑な接続のもと、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、先進的な取り組みを実施する大学等を支援する事業だ。新潟大学は2015年度に「テーマIV長期学外学修プログラム(ギャップイヤー)」に採択された。これは学生が地域や企業、海外などの社会の中で能動的に学ぶことで、「社会人基礎力」「汎用的能力」「課題発見力」「課題解決力」を身に付けることを目的に、長期にわたる「学外学修プログラム」を開発・実施するというもの。入学直後等の時期に、学生を一定期間学外で学ばせることにより、主体性を育ませようというものだ。まさに新潟大学の教育理念である「自律と創生」を体現する内容である。



『新潟産業フィールドワーク』の様子

正解の見出しがたい問題に他者と協力しながら、挑戦し乗り越えていく能力です」

高等学校までの教育は、教科書の中に必ず正解が書かれていて、それらを効率よく暗記できれば良い成績がとれるのがまだ一般的なスタイル。しかし、大学で学ぶ、研究するということは、ある現代社会の現状を鑑みると、大学教育にはこれまで以上に「主体的な学修」を促す授業への転換が求められている。

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探求や社会の発展に貢献する研究を行っています。

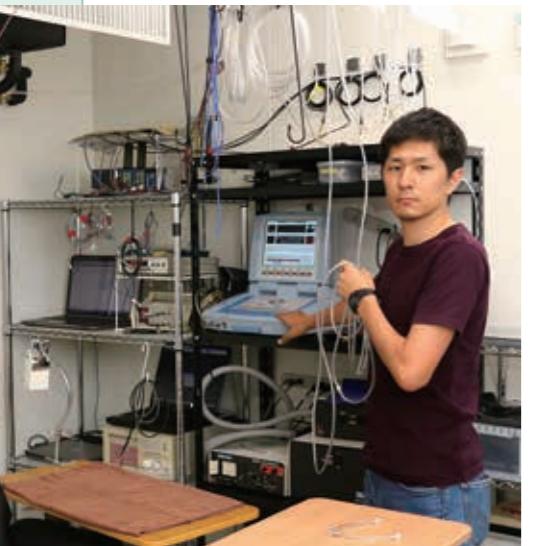
人文社会科学系(教育学部)
天野達郎 准教授

| Profile | 博士(学術)。専門は運動生理学。発汗や皮膚血流について研究する

研究
課題

運動と体温調節

発汗能力に個人差があるメカニズムを解明 研究成果を教育やスポーツ現場に還元する



ヒトを対象として、暑熱ストレスや運動に対する体温調節反応に関する研究を進める天野達郎准教授。

「体温上昇を抑制する機能が発汗です。しかし、汗をかく能力には非常に個人差があります。日常的に運動する人は、しない人に対して発汗能力が高い。その能力の違いはどこから生じるのかを明らかにする研究をしています」

実験はアスリートや学生の協力と理解のもと、空間内の温度や湿度を調節できる専用の研究施設で行う。協力者の皮膚に発汗カプセルを貼り付けて水分量を計算。さらに直腸や食道など深部の体温、心拍数や血圧などを計測し総合的に運動中の体の反応を評価していく。一方で、

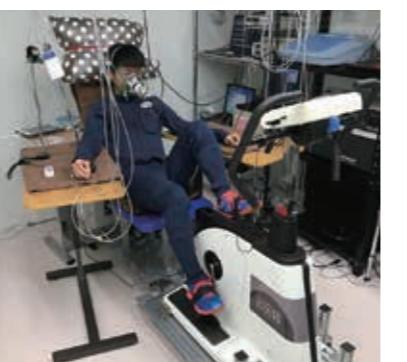
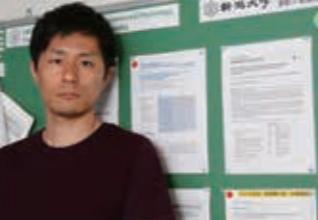
専門家と協力しながら薬理的に発汗能力を調べる研究も行っている。
「汗は汗腺から出ますが、そこでは様々な受容体や神経、ホルモンが関係しています。発汗作用について有名なのは、神經伝達物質アセチルコリンに対して反応する受容体ですが、実験の結果、それだけでは説明できない領域があることが分かりました。汗は日常生活において様々な扱われ方をし、汗をかい方が良い時と、抑えたい場面というものがあります。運動中に汗をかくのは良いことと言われていますが、緊張した時にかく汗にはネガティブなイメージがあります。汗を生成するメカニズムが神經伝達レベルで分かると、さらなる成果が期待できると思います」

このように発汗と体温調節機能のメカニズムを探索する一方で、その研究成果を教育やスポーツ現場に還元する応用研究や企業との共同研究も進めている。

「スポーツ選手が汗をたくさんかくのは知られていることですが、彼らのパフォー



教育学部内にある実験室



▲運動時の発汗などの体温調節実験の様子。皮膚の温度を一定にする専用スースを着用している。スースの下にはたくさんのセンサーがあり様々な測定を行っている



▲イオントフォレーシスという方法を用いた発汗の薬理実験の様子

マンスにも汗が関わっている可能性があります。また、熱中症になりやすい方たちを助けるサプリメントや食事法の開発に貢献できるかもしれません」

研究は学生と協力しながら行われる。彼らにとっては最前線の研究を経験する貴重な時間だ。実際の実験を通してリアルな生体反応についての経験を深め、高い学問的知識・経験に裏付けられた研究者や教員を目指すことができる。また学校現場で使える新しい熱中症予防に関する研究もスタート。様々な分野での発展性が期待できる興味深い研究だ。

自然科学系(農学部)
森口喜成 准教授

| Profile | 博士(農学)。専門は森林遺伝育種学。樹木の品種改良や種苗生産、遺伝的特徴の解明等を行う

研究
課題

花粉を飛ばさない無花粉スギの普及に向けた研究

DNA解析による大幅な育種期間の短縮を目指す

渕大学に着任された後、当時の学生だった私が無花粉スギ（新大1号）を偶然見つけたことにより、研究室をあげての無花粉スギの探索が始まりました。今から約20年前のことです」

無花粉スギの探索は平博士が退職するまで7年間続けられ、最終的に12個体の無花粉スギが発見された（新大1号～12号）。しかし、自然界に数千本に1本と推定されている無花粉スギの探索は多大な労力と年月を必要とした。

「無花粉スギは1992年に平英彰博士が富山県で初めて発見し、単一の劣性遺伝子（雄性不稔遺伝子）によって生じることが分かっています。そのため、父親と母親の双方から雄性不稔遺伝子を受け継いでペアにならないかぎり、子供は無花粉スギになりません。平博士が新



▲無花粉スギは単一の劣性遺伝子によって生じる

の開発や新品種の作出に取り組んでいる。

「近い将来、芽生えの段階でDNA解析によって無花粉スギが判定できるようになるでしょう。育種に時間のかかる樹木では画期的な技術です。新たに供給されるスギ苗が全て無花粉スギとなるように、今後も研究を続けていきます」



▲農学部の研究施設で無花粉スギの苗高を測定する



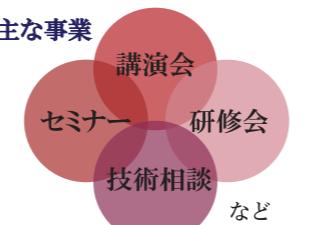
▲花粉を全く飛ばない無花粉スギ

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク 新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

詳しいお問い合わせの方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。 新潟大学産学連携協力会 <http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/>

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会（新潟大学地域創生推進機構内） TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@cer.niigata-u.ac.jp



ときめく「知」の交流

地域社会への知的貢献を行う拠点として、「新潟大学駅南キャンパスときめいと」が設置されています。

新潟駅直結のPLAKA1に位置する抜群の利便性のほか、約610m²(185坪)の広さに、大小の会議室、展示イベント等に使用できる多目的スペースを提供しています。それぞれの会議室には大型スクリーン、プロジェクター等のAV機器が用意され、講義のほか、講演会やセミナーにも最適です。どうぞお気軽にご利用下さい。

お問い合わせ・お申し込みは 新潟大学駅南キャンパスときめいと Tel:025-248-8141 Fax: 025-248-8144 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、就学支援事業を行います。

令和元年度は、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」に支援を行っております。

■寄附者名簿 (H31.3~R1.5寄附入金分) ※(50音順 敬称略)

〈個人〉石田 武裕 岡村 光展 柏木 道子 小林 七雄 小林 義夫 佐藤 純一 古川原 誠 松岡 琢磨 松澤 澄江 吉塚 康一 匿名希望 3名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (H30.9~H30.11寄附入金分) ※(50音順 敬称略)

〈個人〉池内 健 石田 武裕 板垣 江代子 岩田 和雄 小野 秀平 菊池 透 木之井 ミツ 小玉 真梨子 小林 義夫
齊藤 百合子 笹森 周 佐藤 和子 高橋 堅太郎 中川 利夫 富山 貴明 波多野 優子 広川 ミ工 藤田 澄子
古川原 誠 松井 美津子 宮島 弘明 森 正勝 匿名希望 13名

〈団体〉株式会社中越加工 新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟大学大学院技術経営研究科有志

新潟大学サポーター俱楽部

■目的 繼続して新潟大学を支援するため、俱楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。

また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (H31.3~R1.5寄附入金) ※(50音順 敬称略)

〈個人〉岡村 光展 小林 信一 廣澤 利幸

〈団体〉株式会社ウイザップ NST新潟総合テレビ
有限会社エリアプランニング 株式会社大原鉄工所
株式会社カネコ商会 グローバルウェーブ・ジャパン株式会社
さくら皮膚科医院 佐藤食品工業株式会社
株式会社ジェイ・エス・エス 株式会社新越ワールズ
総和建設株式会社 株式会社ナカムラ
新潟ニッタン株式会社 日清医療食品株式会社中部支店
畠山産婦人科クリニック ひろさわ内科医院

最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

新潟大学古本募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。

寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者名簿 (H31.3~R1.5寄附入金分)

〈個人〉30名 〈団体〉9団体

あたたかいで支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。
問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 [TEL]025-262-5651・6010・6356 [e-mail]kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
[HP]<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>



読み終えた本が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

お申込み

新潟大学古本募金



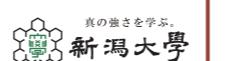
0120-29-7000

(受付)

9~18時

企画 新潟大学サポーター連携推進室

TEL. 025-262-5651, 6010



今回のテーマ 「暑すぎる日本の夏をどう耐え凌ぐか」

この最近の夏の暑さが耐えられない。去年の夏も、アナウンサーの宇垣美里さんがフジオで「こんなに毎日40℃超えたたらもう生命の危機だし、夏つていう既存の概念にはあてはまりきらないですし、新しく『烈(れつ)』っていう季節付け加えません? 春・夏・秋・冬で季節も5期制にしましょうよ」と提唱していて、完全に正しいことを言ってるなこの人と思った。

自分なりにも、今年は暑夏(新季節で言うところの『烈』)対策を講じていざなう。それが「脳心靈スポットめぐり」だ。肝試しなんて怖がりの自分には無理だと思ってるあなた、子供の頃無理やり連れていかれた肝試しのことを思い出すだけで鳥肌が立ってしまうあなた、その寒氣や悪寒を酷暑対策を利用してみてはどうだろうか。特に私が推薦するのは「脳心靈スポット巡り」である、「脳酒」や「脳飲み」のように、まだ明るいうちに心靈スポットに行ってしまえば、真夜中にぐぐり金剛怖くないし、写真に心靈が映り込む可能性も低い。帰り道に

この暑夏の概念にはあてはまりきらないですし、新しく『烈(れつ)』つ

ていう季節付け加えません? 春・夏・

秋・冬で季節も5期制にしましょうよ」と提唱していて、完全に正しいことを言ってるなこの人と思った。

自分なりにも、今年は暑夏(新季節で言うところの『烈』)対策を講じていざなう。それが「脳心靈スポットめぐり」だ。肝試しなんて怖がりの自分には無理だと思ってるあなた、子供の頃無理やり連れていかれた肝試しのことを思い出すだけで鳥肌が立てしまうあなた、その寒氣や悪寒を酷暑対策を利用してみてはどうだろうか。特に私が推薦するのは「脳心靈スポット巡り」である、「脳酒」や「脳飲み」のように、まだ明るいうちに心靈スポットに行ってしまえば、真夜中にぐぐり金剛怖くないし、写真に心靈が映り込む可能性も低い。帰り道に

この暑夏の概念にはあてはまりきらないですし、新しく『烈(れつ)』つ

ていう季節付け加えません? 春・夏・

秋・冬で季節も5期制にしましょうよ」と提唱していて、完全に正しいことを言ってるなこの人と思った。

自分なりにも、今年は暑夏(新季節で言うところの『烈』)対策を講じていざなう。それが「脳心靈スポットめぐり」だ。肝試しなんて怖がりの自分には無理だと思ってるあなた、子供の頃無理やり連れていかれた肝試しのことを思い出すだけで鳥肌が立てしまうあなた、その寒氣や悪寒を酷暑対策を利用してみてはどうだろうか。特に私が推薦するのは「脳心靈スポット巡り」である、「脳酒」や「脳飲み」のように、まだ明るいうちに心靈スポットに行ってしまえば、真夜中にぐぐり金剛怖くないし、写真に心靈が映り込む可能性も低い。帰り道に

この暑夏の概念にはあてはまりきらないですし、新しく『烈(れつ)』つ

ていう季節付け加えません? 春・夏・

秋・冬で季節も5期制にしましょうよ」と提唱していて、完全に正しいことを言ってるなこの人と思った。

自分なりにも、今年は暑夏(新季節で言うところの『烈』)対策を講じていざなう。それが「脳心靈スポットめぐり」だ。肝試しなんて怖がりの自分には無理だと思ってるあなた、子供の頃無理やり連れていかれた肝試しのことを思い出すだけで鳥肌が立てしまうあなた、その寒氣や悪寒を酷暑対策を利用してみてはどうだろうか。特に私が推薦するのは「脳心靈スポット巡り」である、「脳酒」や「脳飲み」のように、まだ明るいうちに心靈スポットに行ってしまえば、真夜中にぐぐり金剛怖くないし、写真に心靈が映り込む可能性も低い。帰り道に

この暑夏の概念にはあてはまりきらないですし、新しく『烈(れつ)』つ

ていう季節付け加えません? 春・夏・

秋・冬で季節も5期制にしましょうよ」と提唱していて、完全に正しいことを言ってるなこの人と思った。

自分なりにも、今年は暑夏(新季節で言うところの『烈』)対策を講じていざなう。それが「脳心靈スポットめぐり」だ。肝試しなんて怖がりの自分には無理だと思ってるあなた、子供の頃無理やり連れていかれた肝試しのことを思い出すだけで鳥肌が立てしまうあなた、その寒氣や悪寒を酷暑対策を利用してみてはどうだろうか。特に私が推薦するのは「脳心靈スポット巡り」である、「脳酒

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

佐渡自然共生科学センター開所記念シンポジウム 『地域と共につくりあげる「自然共生科学拠点」を目指して!!』を開催しました

本年4月に佐渡島に設置した「佐渡自然共生科学センター」の開所を記念したシンポジウムを6月2日(日)に佐渡市内において開催しました。シンポジウムでは、高橋姿学長の開会挨拶の後、新潟県知事、佐渡市副市長そして文部科学省の渡辺その子審議官(科学技術・学術政策局担当)からそれぞれ祝辞が述べられました。続いて、崎尾均佐渡自然共生科学センター長から、活動紹介と今後の構想について説明があった後、総合地球環境学研究所の中静透特任教授から「森里海の恵みを科学する」と題して人間と自然の共生社会について基調講演が行われました。また、同センターの豊田光世准教授の進行の下、女優の中嶋朋子さんと、FM-NIIGATAパーソナリティの上村知世さん(本学卒業生)をゲストに迎えて「自然は感性のゆりかご」と題して人と自然との関わりについて特別対談が行われました。対談の中では、中嶋さんによる絵本の朗読も行われ、来場者にとっても日常の中にある発見や自然の感動などを改めて感じられる時間となりました。



平成31年度国立研究開発法人科学技術振興機構 「ジュニアドクター育成塾」事業に採択されました



本学が提案した「自然と人の共生を科学する新潟ジュニアドクター育成塾」と題する企画が採択されました。「ジュニアドクター育成塾」とは、科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、理数・情報分野の学習等を通じて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援するものです。本学の企画では、新潟県の豊かな自然を舞台に、本学の特色である研究分野や教育施設、留学生を活用し、自然・生物・人に関する課題をグローバルな視点で理解し、自然と人間を愛し、共生を実現する未来の科学人材を育成します。具体的には、佐渡自然共生科学センターを活用した「佐渡合宿」による研究体験、脳研究所を含む本学諸分野の授業により、データマネジメント力と課題発見力を高めたのち、自らが選んだテーマについて、研究体験と成果発表を行い、連携機関・企業を利用した体験も加え、課題解決力を育成します。また、ループリックによる評価基準や活動ノート作成により受講生の能動的学習を促し、修了後の科学への興味の継続性を担保し、高校・大学への進学へつながる人材育成を目指します。

駅南キャンパスときめいとにて『日本酒学』の取り組みを企画展示しています

駅南キャンパスときめいとにおいて、本学の日本酒学の取組について紹介するパネルや新潟県内の全酒蔵の酒瓶、酒器(レプリカ)を6月25日(火)から展示しています。この企画は、昨年、文部科学省の「情報ひろば」で展示していたもので、多くの方から好評をいただいたため、その後本年2月から5月末まで、地域の方などがご覧になれるよう本学中央図書館でも展示をしておりました。このたび、より多くの方にご覧いただけるよう、アクセスに便利な新潟駅に直結した本学の駅南キャンパス「ときめいと」で同年秋頃(予定)まで展示を行うことといたしました。「地方総合大学の強みを活かした、新たな学問分野『日本酒学』の確立と地域創生の取り組み」がテーマの本展示を、お近くにお越しの際はぜひご覧ください。

